

§ 1 一般事項

1-1 適用範囲

本特記仕様書は鉄筋コンクリート造建築物の梁及び柱のせん断補強筋として使用されるリバーボン785 (KW785) の設計・施工に適用する。
本仕様書に記載がない事項については、以下の諸規準による。

- ・建築行政情報センター、日本建築防災協会「2020年版 建築物の構造関係技術基準解説書」
- ・日本建築センター 「壁式ラーメン鉄筋コンクリート造設計施工指針・同解説(2003)」
- ・日本建築学会 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2018)」
- ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5(2022)」
- ・日本建築学会 「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021)」

§ 2 材料

2-1 コンクリート

コンクリートは普通コンクリートとし、 F_c 21~60N/mm² を使用する。

2-2 リバーボン785 (KW785)

リバーボン785 (KW785) は国土交通大臣認定 (MSRB-9007) を取得している。
リバーボンの径は表-1に示す3種類であり、機械的性質は表-2のとおりである。

表-1 リバーボン785 (KW785) の種類

呼び名	公称直径 d _n (mm)	公称周長 (cm)	公称断面積 (cm ²)	単位質量 (kg/m)
K10	9.53	3.0	0.7133	0.560
K13	12.7	4.0	1.267	0.995
K16	15.9	5.0	1.986	1.560

表-2 リバーボン785 (KW785) の機械的性質

試験部位	降伏点 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)	伸び (%)
母材部	785以上	930以上	8以上
溶接部	785以上	930以上	5以上

*:標点距離を8d_nとする (d_nは公称直径)

§ 3 加工

3-1 曲げ加工・溶接

リバーボン785 (KW785) の曲げ加工及び溶接は、JFEテクノワイヤ(株)の認定工場で行う。

3-2 曲げ角度・余長

表-3 曲げ角度と余長

余長	6d以上	6d以上	10d以上
折曲げ角度	180°	135°	90°

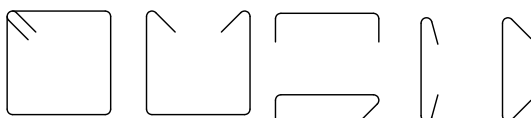
D : 折曲げの内のり直径

D ≥ 4d

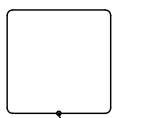
dは呼び名に用いた数値

3-3 加工形状

1) フック加工の例

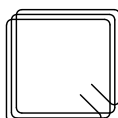


2) 単筋溶接閉鎖形



突合せ溶接

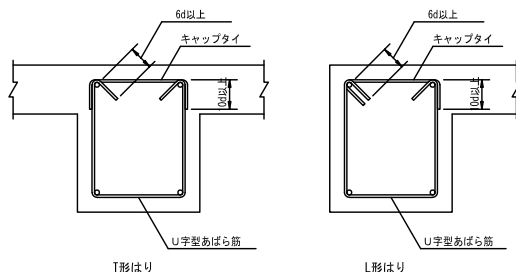
3) スパイラル筋



§ 4 組み立て

4-1 一般事項

- ・せん断補強筋は設計図及び施工図に従い正しく配筋し、コンクリートの打ち込み完了まで移動しない様十分堅固に組み立てる。
- ・フック付単筋を用いる場合はフック位置を交互に配置することを原則とする。
- ・溶接閉鎖形筋の溶接部は交互に配置することを原則とする。
- ・梁あばら筋で90°フックを使用する場合は、下図のT形梁もしくはL形の梁に限定して使用する。

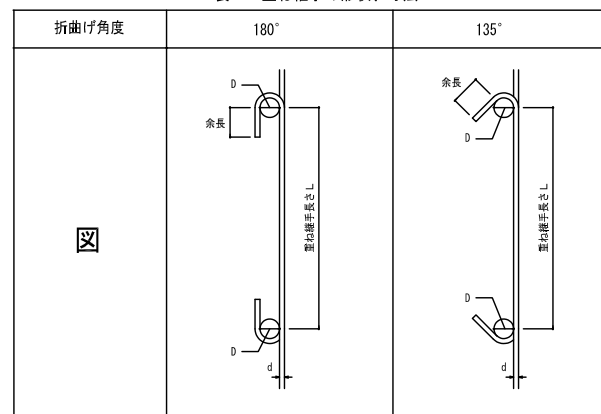


4-2 重ね継手工法

- ・以下の条件であれば筋に重ね継手を設けることができる。

- ① 梁せいが1000mm以上の梁。
- ② 基礎梁は先行して曲げ降伏しないことが確かめられた場合。
上部構造の梁は曲げ降伏しないことが確かめられた場合。
- ③ 重ね継手部のかぶり厚さは50mm以上。
- ④ 近接の主筋とのあきは70mm以上。

表-4 重ね継手の形状、寸法



(備考) 1. dは呼び名に用いた数値とする。
2. Dは折り曲げの内のり直径とする。

表-5 重ね継手長さL

コンクリート強度 F_c (N/mm ²)	21 ≤ F_c ≤ 24	27 ≤ F_c ≤ 30	33 ≤ F_c ≤ 42	45 ≤ F_c ≤ 54	57 ≤ F_c ≤ 60
重ね継手長さL (mm)	55d	50d	45d	40d	35d

(備考) dは呼び名に用いた数値とする。

§ 5 施工上の注意

5-1 一般事項

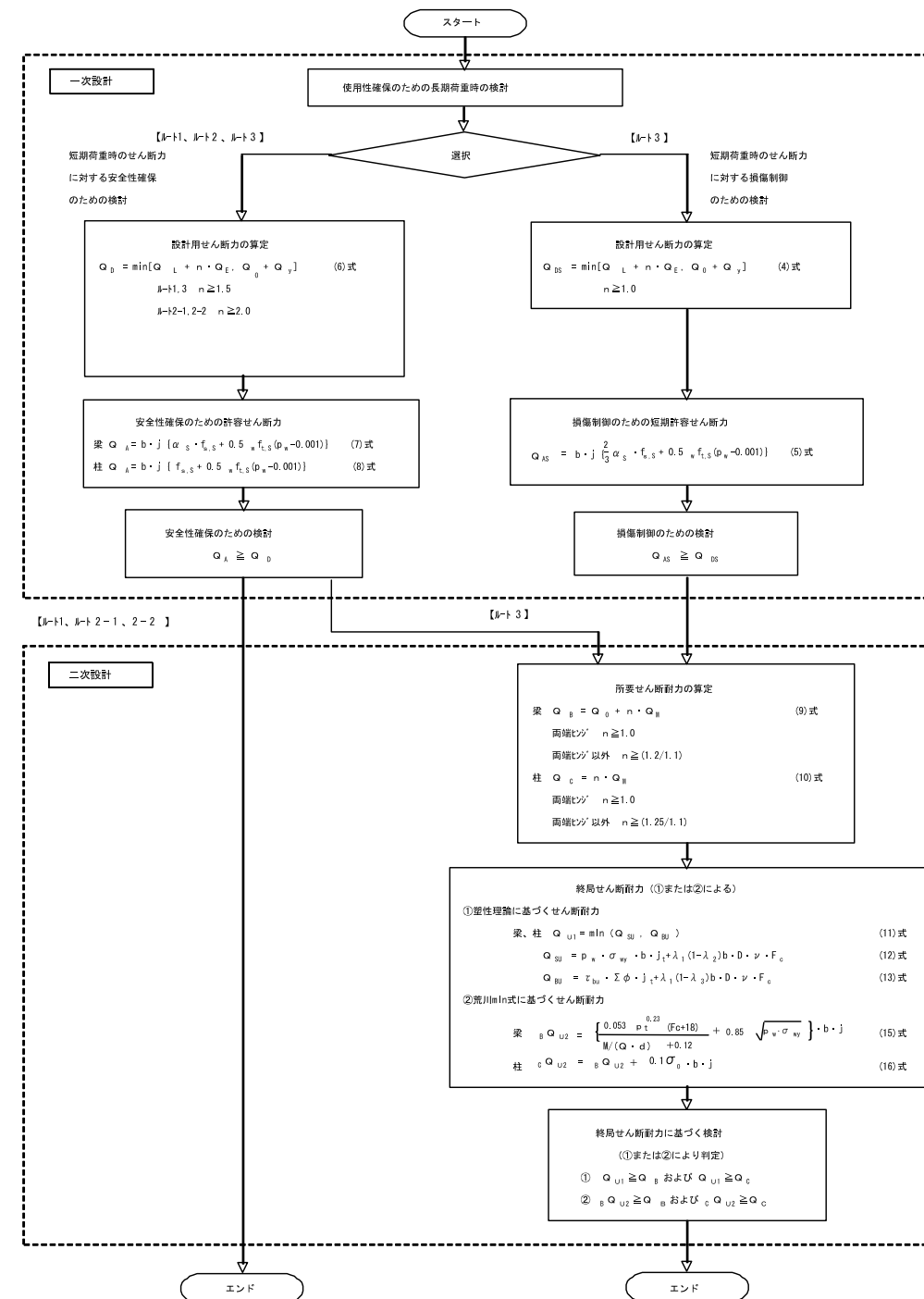
- ・リバーボン785 (KW785) は現場溶接を行ってはならない。また、主筋等の溶接の際には、せん断補強筋にアークスパイト等過度の加熱をしないよう十分に注意する。
- ・リバーボン785 (KW785) の切断はシャーカッター、電動のこにより行う。
- ・曲げ加工したものを曲げ戻し、曲げ位置を変更する様な再加工を行ってはならない。
- ・リバーボン785 (KW785) は直接地上に置くことを避ける。又、雨・潮風等に曝されず、ごみ、泥油等で汚さない様に保管をすること。
- ・リバーボン785 (KW785) は組立てに先立ち、浮き錆・油・ごみ・泥等コンクリートとの付着を妨げる恐れのあるものは除去すること。

5-2 配筋の検査

- ・配筋後、コンクリート打ちに先立ち係員の検査を受けなければならない。

§ 6 設計のフロー

本仕様書は高強度せん断補強筋「リバーボン785」を用いた鉄筋コンクリート部材の設計施工指針・同解説 (BCJ 評価-RC0444-04) に従う。



記事	承認 (管理建築士)	設計	CAD	作成年月日	工事名	図番
				縮尺	図書名	通し番